

寄席の楽しみ

寄席とは、落語・講談・漫才・浪曲・太神楽など、おもしろいお話を聞かせてくれたり、あっと驚く難しい技などを見せてくれるところです。大阪や東京にはそんな演芸を一日中、何十人もの方が披露する寄席小屋という場所があります。ちびっ子寄席のメンバーも、普段はそういった寄席を中心に様々な場所で活躍しています。寄席ではいろんな演芸を楽しめますが、やはり最も代表的なものが落語です。落語には大きく分けて、東京を起点とする「江戸落語」と大阪を起点とする「上方落語」があります。言葉も《江戸弁》と《大阪弁》に分かれ、それぞれがその発祥から生まれたと思われる特徴を持っています。

江戸落語の発祥は、お座敷芸でした。武士や、商人が舞いや音楽を楽しむように「落とし噺」を楽しんだのが始まりであったと伝えられています。お座敷芸として洗練されていった江戸落語は粋を重んじ、軽妙洒落な語り口で観客を飽きさせないのが身上。登場人物にも江戸っ子の粋や男気を思わせるところが多く見られます。

それに比べ、上方落語の発祥は大道芸であったと言われています。縁日などで、屋外で人を集めて語り聞かせながら物を売る商人たちと同じく、道を通る人々の注意を引かなければなりません。当然の事ながら上方落語は派手で陽気になっていきます。そのなごりが現在も「見台」（小机）と「小拍子」として残り、話の節目で小拍子を見台に叩きつけて音を出し、注意を引き、話題の転換や場所の移動を表現するのに用いられています。また、動きが派手で着物の裾が乱れるところから「膝隠し」を立てて膝を隠すという習慣も今もなお残っています。情報や文化の交流とともに、江戸落語も上方落語もお互いに影響を受け、中にはその特徴を失いつつあるものもありますが、その本質は変わってはいません。

『百聞は一見に如かず』今回は、東西落語の違い、寄席の色物や踊りである「かっぽれ」を児童・生徒参加コーナーを含めてお楽しみ下さい。

令和5年度
がっこうじゅんかいこうえんじぎょう
—学校巡回公演事業—

ちびっ子寄席

えんげいこうえん
〈演芸公演〉



「学校巡回公演事業」

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



文化庁

舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)
独立行政法人 日本芸術文化振興会

よ せ かん しょう きょう しつ たのしい 寄席鑑賞教室



「人々は暗がりよりも明かりを求め、対立よりも社交を愛し、空腹よりも美食を追求するようになる」これは、『落語』が生まれたと言われる江戸中期、今から三百年前の出来事です。

落語の舞台はとてもシンプルです。座布団の上の70cm四方の空間が世界の全てです。それでも演者の表現力と観客の想像力が重なれば、それは無限の空間へと広がって行くのです。さらに江戸落語と上方落語、同じ笑いでありながら伝承や発展の違いで、異なる面白さへと発展していった二つの笑いを聞き比べてください。笑いの向こうに文化が見えます。

その日、その時、その場に集った、皆さんのためだけにつくられた寄席芸の神髄をお楽しみください。



よ せ ばやし 寄席囃子

江戸時代に上方で発祥したと言われ、寄席で用いられる囃子全般を指します。落語家の登場に鳴らす「出囃子」や、囃子の中の効果音やBGMとして使われる「はめもの」などがあります。主に三味線・笛・太鼓・銅鑼などで構成されています。

いろもの 色物

寄席において、落語と講談以外の演目を指します。むかし寄席のめぐりで落語・講談の演目を黒文字で、それ以外の演目は朱色などの色文字を使って書かれていたことに由来します。

太神楽(だいかぐら):元は、神仏への奉納として舞われてきた太神楽が大道芸として、より演芸性を高め伝承されてきました。華やかな小道具を使って言祝ぐ、日本古来の伝統芸能です。

■ かつぽれ

大阪の住吉大社の住吉踊り(重要無形文化財指定)が元になったと言われている踊りです。東京では明治初期に三味線伴奏により「かつぽれ踊り」と称して浅草に常設小屋を設けて興行していました。そこから寄席芸となりました。



しゅつ 出	えん 演	えん 演	もく 目	ない 内	よう 容
				らくご ふ た め 「落語に触れる子どものために…」	らくごのルーツと、成り立ちを解りやすく、笑いを交えながらお話します。
	えどらくご 江戸落語・かつぽれ さんゆうてい 金八 他			よ せ ばやし しょうかい 「寄席囃子の紹介」～落語教室 含む～	とうざい らくご ちが とくしよく しゃみせん たいこ ふえしょう ひょうしぎ 東西の落語の違いと特色を、三味線・太鼓・笛・鉦・ドラ・拍子木など、エピソードを交え、寄席の順番に従って演奏、解説をいたします。
	かみがたらくご 上方落語・かつぽれ しょうふくてい せいきやう 笑福亭 生喬 他			かみがたらくご 「上方落語」	ももたろう たいらばやし どうぶつえん はつてんじん などなど かみがたらくご にゅうもんへん い 「桃太郎」「平林」「動物園」「初天神」等々…。上方落語の入門編とも言うべき落語を、小学生・中学生に合わせてお話しいたします。
	いろもの 色物 ラッキー 舞 他			「なぞかけにチャレンジ!!」(児童・生徒参加コーナー)	ワークショップで学び、考えた、なぞかけの児童・生徒の発表コーナーです。
	お囃子 三味線 はやし や律子 他			いろもの 色物	いろもの よせ いろど げいのう ふだん め こと かわいい わざ 色物は寄席を彩る芸能です。普段あまり目にする事のない華麗な技の数々をご覧ください。
	たいこ なるもの 太鼓・鳴り物 つき 月亭 遊 真 他			えどらくご 「江戸落語」	しっとりとした囃子を聴かせる江戸落語。上方落語とはまた違った言葉遣いなどにも注目してみてください。
				「みんなでかつぽれ!」(児童・生徒参加コーナー)	さいご 最後はかつぽれをみんなで踊りましょう。練習してきた児童・生徒には練習の成果を披露してもらいます。

